

全日本教育工学会全国大会 関西大学

2006.11.3

小学校における日本とシリアとの共同作成画を通じた交流 International exchange of Art with Syria and Japan

清水 和久*1 坂上 則子*2 岸 磨貴子*3 今野 貴之*3
Kazuhisa SHIMIZU Noriko SAKAGAMI Makiko KISHI Takayuki KONNO

*1 石川県教育センター Ishikawa Prefectural Institute for Education Research
and In-service Training

*2 金沢市立扇台小学校 Kanazawa Municipal Ougidai Elementary School

*3 関西大学大学院 Kansai University Graduate School

本プロジェクトは関西大学と国連パレスティナ難民救済事業機関 (UNRWA) とジャパン
アートマイル (JAM) の共同プロジェクトである「アートマイルプロジェクト」の一環と
して行ったものであり、小学校における総合的な時間の国際理解教育のカリキュラムとし
て、外国の児童と絵を媒介として交流を行い、互いの文化理解を深めようとするものであ
る。

総合的な学習の時間 遠隔教育・学習 コミュニケーション 国際理解教育 小学校教育

1. はじめに

小学校における総合的な学習の時間のカリキュラムは、どの学校でもほとんど固まって
きていると思われる。しかし、国際理解教育なかでも「同年代の外国の小学生同士の国際
交流」は、あまりされていないのが現状である。その理由としては相手を見つけることの
困難さと、年間カリキュラムとして実際に継続して取り組んでいくこと困難さがあげられ
る。

今回、関西大学と国連パレスティナ難民救済事業期間（UNRWA）とジャパンアートマイル（JAM）の共同プロジェクトである「アートマイルプロジェクト」に参加することにより、TV 会議や BBS を通じた交流でお互いの伝統文化を伝え、自国の文化に誇りを持ち、同時に相手の文化を理解すること、また壁画の共同制作を通して思いを共有し相互理解を深めることを目標として取り組んでいる。

2. 研究の目的と方法

2-1 研究の目的

外国の児童との共同作業を通しての意思疎通の効果的な方法について明らかにする。

学校現場に国際交流の活動について興味をもってもらい、なるべく負担の少ない形での継続した活動として発展させていく方法をさぐる

2-2 方法

- 1) 国際交流の意識調査から（2003）
- 2) 総合的な学習の時間へ「国際理解教育」のカリキュラムの組み込みの可能性について
- 3) 金沢市立扇台小学校 6 年 3 クラスとシリアの UNRWA 側の小学生と共同壁画作成活動の実際

3. 結果と考察

1) 国際交流の意識調査から（2003）

金沢市の小学校に対して 2003 年に金沢市青年会議所が国際交流に関してアンケートをとっている。市内 60 校の小学校のうち、国際交流をやってみたい学校は 17 校、関心のある学校が 21 校である。（図表 1）また、交流の内容としては、実際にあつて交流したい（27 校）、絵の交換（22 校）、e-mail による交流（15 校）、WEB ページによる交流（14 校）などの順である。（図表 2）E-mail による交流は、小学校の段階ではサポート体制がしっかりしていないと難しいが、言語を必要としない絵の交流は小学校においても現実的であり実現可能と思われる。

図表 1

図表 2

2) 総合的な学習への国際交流のカリキュラム化

国際交流に興味はあっても、できない理由として、まず相手の見つけ方が分からないと言うのが大きな理由としてあげられる。また、国際交流自体は相手がいれば始めてできる物であり、学年そろっての国際交流は難しい場合が多い。日本の学校の場合、学年で総合のテーマを合わせることが望まれるため、1クラス分だけの交流希望があっても、他のクラスができないと実現は難しい。さらに、学校によっては4月の段階で総合のカリキュラム計画を提出させるところが多く、外国の学期の始まりが9月の場合、年度の半ばから希望が来る場合も多く、年度当初に交流校を決められないという場合もある。

外国との交流の場合は、相手の熱意との温度差もあり、万が一相手が交流できなくなった場合でも、日本側として活動が完結できる様な計画にしておかないと、児童の成就感を持たせられない場合もある。

そのため、サポート体制がしっかりしていること（ICTの面、通訳の面）を確認し、交流が万が一うまくいかなくても、日本側の単独の活動自体としても成り立つことを念頭に、教科との関連も考えてカリキュラムを考えてもらった。

6年総合カリキュラム「世界の人と手をつなごう」

全50時間 ○は関連教科

シリアについて学ぼう（6時間）

- ・ゲストティーチャーの話（関西大学）
- ・シリアについて調べる

社会 世界の国々

道徳 世界が100人の村だったら

調べたことをまとめよう（8時間）

- ・自国のことでシリアに伝えたいことは
- ・シリアについて知りたいことは（伝統、文化、生活、自然、遊び）

- ・TV会議、BBSで伝え合おう

○国語 ガイドブックをつくろう

□表現しよう（8時間）

- ・テーマに沿って下絵を考えよう
- ・TV会議で伝えよう

○国語 学級討論をしよう

□絵を完成させよう（8時間）

- ・シリアの絵のすばらしいところを学ぼう
- ・協力して絵を完成させよう

○図工 夢を集めて

□まとめよう（12時間）

- ・交流で分かったことをまとめて発表する
- ・共通するところがたくさんあったぞ

○国語 自分の考えを発信しよう

3) シリアとの実際の交流

今回、シリアとの交流プロジェクトを扇台小学校の総合的な学習のカリキュラムとして実行できた理由をあげてみたい

□ サポート体制の確立

- ・関西大学のスタッフがシリアと何度も往復して意思疎通を図ってくれること、現地のJICAのスタッフがボランティアとしてTV会議などの通訳をしてもらえた（シリアの先生の中にも英語でのコミュニケーションをとれる人もいたので、大まかな話は通じたが、絵

の具体的なイメージなどはやはり、日本人のスタッフがいないと難しい)

□ 交流のツール (BBS) の準備

BBS を用意していただき、日本の児童は日本語でシリアの子どもはアラビア語で書き込むだけでよく、あとはスタッフが英語やそれぞれの言葉で翻訳して書き込んでもらえること。また BBS はクラスごとと、スタッフごとに分かれ、見やすかった

□ TV 会議の準備

TV 会議ソフト **Skype** の利用。各クラスに置いてあるコンピュータから TV 会議を行うことができ、取り立てての準備が必要ないのでとても手軽であった。ただ、クラス全員ではできないので、放課後、6, 7 人のグループに分けて実施した。

□ 交流校の教員同士の意思疎通の重視

交流は、担当の当事者同士の意思疎通が一番必要である。児童同士の交流の前に、扇台小学校の先生方とシリアの先生方との TV 会議を 3 回ほど行った。始めは、**Skype** の設定や話を進める役としての援助が必要であったが、交流担当同士が決まるとペアーの先生同士は 1 対 1 で会話をおこない、相手への親密度を高めることができた。国際交流は、なんといっても先生自身が交流の良さを実感することにある。あとは自力で扇台小学校の先生方で TV 会議を進めることができた。

□ 管理職への対応

外国との交流を始めるに当たっては、きちんと管理職に対して説明することが大切である。今回交流の対象校の金沢市立扇台小学校に対してはバックアップ役の石川県教育センターの指導主事と、交流の話を持ちかけていただいた関西大学大学院 (岸、今野両氏に、プロジェクトの趣旨を管理職に説明してもらった。シリアと聞くと日本ではマスコミを通したあまり良くないニュースが伝えられることが多いが、現地に何度も行っている関西大学の岸さんの説明がわかりやすく、納得してもらうことができた。

□ 先生同士の直接交流の実現

関西大学のスタッフからシリアの実際の様子を聞いて興味をもった扇台小学校の先生 2 人 (海外旅行初体験) が夏休みに実際にシリアを訪問した。ヒズボラとイスラエルの戦闘も

あり、レバノンのお隣のシリアに行けるのかどうか心配されたが、丸1日かけてドバイ経由でつくことができた。現地では、シリアの子どもたちが実際に絵を描いている所を見ることができ、また、現地と結んで扇台小学校とTV会議することができた。シリアの先生もわざわざ日本から来た先生を大歓迎してくれたようである。また、一番驚いていたのは扇台小学校の他の教員であった。なにしろ、同僚がシリアからTV会議で話しかけて来るのであるから・・・

4. 今後の動き

9月、シリア側の絵が完成し、シリアを訪れた扇台小の教員によって絵は日本側へ運ばれ、子どもたちに披露された。

絵の下書きの案の段階では、シリア側の先生のイメージが強く、各クラスともそれぞれシリア側の意向を尊重して日本側のデザインを考えた。6年1組は、シリア側の先生が美術の先生でデザインのこだわりがあり、パーツごとに互いに入れ子状に作成、2, 3組は半分ずつ描くことになった。

図表3 シリア1組 図表4 シリア作成中

図表5 シリア2組 図表6 シリア3組

9月からは、シリアを訪問した先生の話子どもたちが聞き、現物の絵を見ることになる。共同で何かを作り上げる活動を通して、シリアの子どもたちを強く意識し、相手の思いも感じることができると思われる。1枚の絵を共同で完成させることで、自分の思いを絵に込め、相手を理解することができるのである。直接の言語での交流が難しい小学校の場合は、特にこのように交流は有意義であると考えられる。

参考 URL <http://artmile.ict-education.org/bbs/>

このような内容で発表させていただきます。

当日の発表は、日本側の絵の完成までのプロセスも入れたいと思います